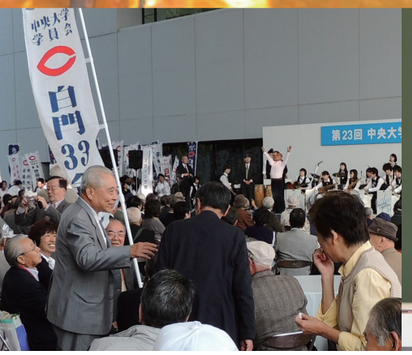
第 23 回中央大学ホームカミングデー - 白門学員祭 - 開催報告



学員と現役中大生が英語で交流 ～将来を見据える

ホームカミングデー初の企画として、国際交流スペース・G スクエアで「Go Global ！体験型グローバル学修に挑む現役中大生の声」が開催されました。本イベントは学生たちが学員に向けて発表するもので、トピックスは「海外企業訪問プログラム成果報告会」と「学生英語プレゼンテーション」の２つ。1 つ目の成果報告会では、世界各国で活躍する先輩方のもとを学生たちが訪問。そこで学んだ海外で働くためのノウハウを紹介していました。2 つ目の英語プレゼンテーションでは、学生たちが「グローバル社会における『開発と貧困問題』」をテーマに英語で問題解決策を提案。登場した 3 チームは、10 月に開催した学内コンペ「Go Global Japan 学内英語リサーチプレゼンテーション大会」で上位入賞したチームです。会場には、海外企業訪問プログラムで学生を受け入れた、学員会海外支部の方たちも応援に駆けつけました。発表後は英語での質問が相次ぎ、学生たちも流暢な英語で受け答えをしました。

学内屈指の演奏団体が続々！ 希少なコラボも実現

セントラルプラザは、屋台グルメや銘酒を楽しむ学員たちでごった返し、旧友と談笑する楽しげな声が響きました。そんな賑やかな雰囲気を一段と盛りあげていたのは、在学生によるメインステージでの演奏、演技です。1 番手は、全日本吹奏楽コンクールなど数々の競技会で金賞に輝く「学友会文化連盟音楽研究会吹奏楽部」。その後はメディアでも活躍をみせる「タップダンスサークル Freiheit（フライハイト）」、学内外で精力的に活動する和太鼓サークル「学友会文化連盟鼓央」が続きました。在学生による公演のラストは「スウィング・クリスタル・オーケストラ」―― 多数のプロミュージシャンを輩出してきた実力と歴史がある部です。中央大学応援歌の演奏では、学員とのコラボレーションも実現。指笛音楽奏者として知られる松谷茂氏が指笛で演奏し、傍らでは学員が応援のパフォーマンスを披露しました。またとない協演に客席では一斉にカメラを構える姿が見られ、会場はおおいにわきました。

２年ぶり、待望の開催！　国際性をテーマに紡がれた中大の未来

2014 年 10 月 26 日、卒業生の祭典「ホームカミングデー － 白門学員祭 －」が多摩キャンパスで開催されました。当日は天候にも恵まれ、子ども連れの卒業生も多数来場。2,500 名以上が青空の下に集い、学生当時を懐かしみながら賑やかなひとときとなりました。2 年ぶりの開催となった今回は、台風の影響で中止になった昨年の意思を受け継ぎ、「グローバルに広がる白門の絆とネットワーク」がコンセプトです。国際性豊かな中央大学ならではの企画が、数多く盛り込まれました。午前 10 時に始まった開会式では、深澤武久理事長が「恩師、級友と意見を交わし、昨年の分まで楽しんでいただきたい」と挨拶を述べました。また、本大会出場が決定した箱根駅伝についても触れ、後輩を応援する学員たちの間から盛大な拍手が湧きました。その後に行われた恒例の「親子三代卒業者」では、8 組の卒業生を表彰。表彰者たちの親子三代のエピソードが紹介され、子どもの受験時期に、「中央大学はいいぞ！」と何度も語った親御さんの話、子どもが中央大学に入学したことで愛校心が一段と増した話などがあり、今後は親子四代を目指そう！といった話題もあがりました。

主なイベント・催しは、開会式後の 11 時からスタート。セントラルプラザや教室などを中心に、約 25 の企画が実施されました。溢れんばかりの聴衆が集まった、対談「いま、日本を読む」では、経済評論家・佐高信氏と総合政策学部教授・目加田説子氏が、アベノミクスの効果、積極的平和主義、集団的自衛権などをキーワードに、グローバルな視点から日本の現状と今後のあり方について討論。佐高氏は時折、冗談を交えながら鋭い意見を発し、聴衆を惹きつけました。

毎年、一番の活気をみせたのがペデストリアンデッキ上の模擬店です。今年は 40 店近くが並び、地方や地元の物産品、屋台グルメを販売していました。そのほかメインステージでは学生団体による和太鼓やタップダンスといった演奏、演技が披露されました。演目のトリを飾った「中央の絆」では、学員会各支部の方々がのぼり旗を持って校歌を合唱。本学応援部の盛りあげもあり、会場一帯は力強い歓声に包まれました。イベントの締めくくりは、大人気企画の特賞抽選会。特賞には中央大学のロゴ入りスクーターのほか液晶テレビなど豪華景品が多数用意されており、抽選されるたびに大きな歓声と落胆の声が入り混じり、白熱した雰囲気を残すなか、今年のホームカミングデーは閉会を迎えました。

卒業生、それぞれの想いが詰まった模擬店から見る「絆」のカタチ

地域や年次の支部、OB たちが出店した模擬店エリアは、飲食店や物販店、体験コーナー、無料生活相談会などでひしめき合いました。順番待ちが出るほど人気だったのが、似顔絵と書道コーナーです。似顔絵コーナーを訪れる学員のなかには、「毎年、似顔絵を描いてもらいたい！」と熱心に足を運ぶ人もいるとか。三角くじと特賞抽選会の 2 つに参加できる福引抽選券付中大オリジナルグッズ販売は、昨年開催されなかったため、いつにも増して大盛況でした。複数購入する人も多く現れ、グッズが足りなくなるかも !? と心配するスタッフもいました。午後 1 時。「200 食完売しました！」と声をあげたのは、老舗レストランのインドカレーが大好評だった白門 48 会支部でした。多摩で農業を営む卒業生が手作りしている無添加の味噌を販売している多摩白門会支部では「出店すると、毎回買いに来てくれるリピーターの方もいるんですよ」と、微笑んでいました。今回、初めての出店だと語ってくれたのは、平成二年支部の学員。「まだ要領がつかめていませんが、隣に出店している先輩方に教わりながら模擬店を楽しんでいます」と、宮城の復興支援を兼ねて宮城県産の食材で作ったスペイン風おつまみとワインを販売。オシャレなおつまみが並び、スペインバルのような雰囲気でした。ホームカミングデーも終盤にかかり、「イベント開催に向けて大学側も頑張ってくれている」と大学へ労いの言葉を口にしたのは、東北の銘酒や各地の特産品などを販売する白門 53 会支部の学員。この日が成功に終わったのも、こうして国内外の卒業生たちが集まったからこそだと言えます。ホームカミングデーを通じて、卒業生と在学生、大学との絆が一層深まった 1 日でした。